



# 我ら岬中

= 教育目標 =

自他を大切にできる心と態度を養い  
自己有用感をもてる生徒の育成

- ・人権尊重の視点に立った学校づくり
- ・「誰かの役に立てた」という集団の一員としての自信の獲得

いすみ市岬町椎木 1370

	男	女	合計
1年	42	45	87
2年	57	47	104
3年	59	43	102
合計	158	135	293

## ICT活用に向け、取組み進む

国のGIGAスクール構想のもと、一人一台タブレットが整備され、授業での活用もだいぶ進んできました。当初は、調べ学習の際にインターネットに接続したり、カメラ機能で撮影したりという使い方が中心でしたが、最近はタブレット端末内の学習支援システムや教育用アプリを積極的に活用する場面が増えてきました。

＜端末に導入されている主な学習支援システムとコミュニケーションツール＞

eライブラリ アドバンス	・習熟度に応じたドリル問題を反復学習できる。 ・各単元分の解説を確認後、要点を問題形式で見直すこともできる。
まなびポケット	・教育プラットフォーム。プラットフォーム上にある各社デジタル教材が利用できる。
SKYMENU	・発表ノートやプレゼンの機能で、自分の考えをまとめたり、友だちに伝えたりする活動ができる。 ・教材を生徒用端末に転送したり、一斉配付したりすることができる。
Teams	・チーム内でのチャットやグループでのオンライン会議ができる。



◆2年生「授業中、机の上に色々なものを出さなくてよくなった。分からない言葉があるとすぐインターネットで調べることができるのもいい。よく使うようになったのでタイピングの速度がかなり速くなった。」  
◆3年生「操作に慣れるまでが大変。資料が一人一人のタブレットに映し出されるので見やすくていいし、音楽の個人練習にも便利。ノートに書き写す時間を省略できるので効率的だと思う。ちょっと重いのもう少しスムーズに動くといい。」

生徒の書いた意見をモニターに映し出す

【生徒の感想】

例えば、生徒一人ひとりの考えや感想をモニターに映し出し、みんなでそれを比較したり、質問し合ったりすることで学びを深める工夫やより効果的に理解を図れるようにするため、動画や画像資料を生徒用タブレットに配信するなど、いろいろ活用方法を工夫しています。

### 課題も浮き彫りに

一方、課題もあります。第一は情報リテラシーやモラルをしっかりと身につけさせること。これまで、専門家によるネットモラル教室や道徳の授業の実施等、様々な取組をしてきましたが、現在は、教員と生徒が委員となって校内ICT委員会をつくり、タブレットの利用についてのルールづくりを一緒にしています。

第二に、教職員のスキル向上。学習支援システムにはさまざまな機能があり、それを理解し使いこなすには、かなりの修練が必要です。そのための時間をどうやって確保していくかが大きな課題です。教員のスキルが向上し日常的に活用すれば、必ずと生徒のスキルも向上していくと思われます。

第三が、周辺機器・設備の充実と整備です。タブレット端末の有効活用には、大型モニターや高性能カメラ等の周辺機器の整備が欠かせません。また、大人数が同時にストレスなく動画を視聴したり、双方向型のやりとりができるように、市教育委員会と連携しながら、さらに整備を進めていく必要があります。

### 学校と自宅のオンラインを試行



10月1日、台風16号の接近により臨時休業となりました。そこで、一人一台配備のタブレットを持ち帰り、自宅と学校をオンラインで結んだ双方向でのコミュニケーションの試行をしました。(写真)

『オンライン朝の会・帰りの会』と名付け、午前9時と午後3時の2回行ったところ、概ねスムーズに通信できました。操作については、学校での活用が進んでいるため生徒に戸惑いはほとんどなく、自宅で短学活という新鮮なシチュエーションを楽しんでいる様子が見えられました。

### eライブラリの活用を

いすみ市では、生徒が自主的に学習を進めることができるよう、学習支援システム『eライブラリ』が導入されています。

単元ごとに習熟度に応じたドリル問題が用意されており、反復学習できます。単元の復習やテスト勉強にも活用できます。実際に、昼休み、配付されたタブレットを使って自主的に取り組んでいる生徒もいます。

家庭学習用の学校コード・ID・パスワードを入力すれば、家庭のパソコンやスマホでも利用できますし、配付されたタブレットを持ち帰って取り組むこともできます。ぜひ活用してください。

### タブレットにおけるチャット機能等について

生徒に貸与されたタブレットのパスワードは、他人に推認されないパスワードになっています。

また、チャット機能については、教員の管理下以外で生徒同士がやりとりできないように設定されています。

## 緊急事態宣言解除後の活動について

感染リスクの高い活動は内容・方法を工夫  
学習活動については、感染症対策を徹底し、学びを継続します。緊急事態宣言中に控えていた感染リスクの高い活動(下記)については、内容や方法を工夫しながら段階的に実施していきます。

- ・対面形式のグループワーク等
- ・理科の実験・観察
- ・音楽の合唱・管楽器演奏
- ・家庭科の調理実習
- ・美術の共同制作
- ・保健体育の密集する運動や接触する運動

### 中止や制限も

学校行事については、感染防止の観点から活動内容や方法を工夫して実施しますが、当面の間、生徒が大勢の校外の人と接触することはできるだけ避けるとともに、感染リスクが高いと判断される行事については、中止や制限を設けます。

### 練習試合は、当面、郡市内で

部活動の練習試合等は、当面の間、夷隅郡市内の学校間での実施とします。ただし、小中学校体育連盟や各競技の中央団体が主催する大会等については、郡市外でも参加を認めます。

普段の練習では、部室や更衣室の密状態を回避するとともに、共用の用具は消毒をします。

### 郡市新人大会の延期大会について

延期となっていた夷隅郡市内新人体育大会は、原則として令和3年11月20日(土)～12月19日(日)の期間に開催することとなりました。具体的な日程については、今後、各競技の専門部により決定されます。

なお、感染防止対策をしても感染リスクが高いと判断された場合や今後の感染状況の変化によっては、中止となることもあり得ることをご理解ください。



10月5日、『スケアードストレイトによる交通安全教室』を開催しました。(写真)

「スケアードストレイト」とは、「恐怖を直視する」という意味で、実際に交通事故を再現し、その衝撃や怖さを目の当たりにすることで、交通安全の大切さや交通ルールの必要性について実感できるようにするという、交通安全指導の手法です。

当日は、プロのスタントマンが本物の自動車やバイク、自転車を使って、交通ルール違反を原因とする様々な事故を再現し、その都度、何がいけなくて、どうしたら防げるのかを具体的に教えてくださいました。

交通安全は、本校の重要課題の一つです。今回のスケアードストレイトは、日頃の交通安全への意識を見直すよい機会となりました。

なお、『スケアードストレイトによる交通安全教室』の実施にあたり、千葉県くらし安全推進課、いすみ警察署、いすみ市危機管理課・教育委員会にご尽力を頂きました。

- ◆1年女子「今日の事故の再現で、自分が今までしていたことの恐ろしさを実感した。今まで運よく事故に遭っていただけで、危ないことをしていたのだなと思った。これからは時間に余裕をもち、ルールを守って自転車に乗りたい。」
- ◆1年男子「迫力がすごくてびっくりした。自転車のルールを守らないと事故で死んでしまったり大けがをしてしまうと改めて思った。車には、死角があることも初めて知った。」

